作文コンクール　優秀賞　（奈良県議会議長賞）

未来への提案

奈良市立登美ヶ丘北中学校　藤木　翔子

今年初めて北方領土について深くまで調べたが、如何に自分がこの問題を表面上しか知らなかったのかと痛感した。正直、別にこの土地に拘らずとも良いのでは？と私は考えていた。が、授業を通して北方領土の貴重な自然、漁場、そしてかつて北方領土で暮らしていた人々の思いを知り、その考えはなくなった。そして、私達一人一人がこの問題に真剣に向き合わねばならないのだ、と思った。

そこで、私は北方領土問題解決のために二つの提案をしたい。一つ目は、もっとメディアにこの問題を発信してもらうことだ。私は授業で北方領土問題について調べるまで、島のそれぞれの名前やどの国と争っているのか等の基本的なことしか知らなかった。恐らく自分のような若者は特にこの問題について関心がうすいと思う。そこで、様々なメディアに特集を組んでもらったり、若者に人気のタレントが出ている番組でクイズ形式等で親しみやすく取り上げてもらえば、若者、また多くの世代の関心が得られると思うからだ。まず、国民の問題に対する意識を変えることが重要だと私は考える。二つ目は、北方墓参やビザなし交流、自由訪問の機会を増やすことだ。国と国の話し合いだけでは、やはり国益や各々の国の言い分がぶつかり、限界があると思う。そこで、今北方領土に住んでいる人とかつて住んでいた人が触れ合う機会を増やせば良いと考えた。外側からではなく、内側から変えていく。そうすれば、日本側の思いや意見を話し合いやすくなり、ロシア側の人々も理解を示してくれるのではと思う。また、ロシア側の意見も聞きやすくなるのではと思う。また、ロシア側の意見も聞きやすくなるのではと思う。今、北方領土に住んでいる人と親交を深め、話し合いやすい環境や雰囲気をつくり、双方の考えを整理することで、問題の早期解決に繋がると私は考える。

今回北方領土について調べていく中で、この問題がとても難しいものだと知った。私が今までの提案で大切にするべきだと思ったのは、双方の思いや意見を尊重することだ。難しくはあるが、どうか双方が納得できる方法で、平和にこの問題を解決してほしいといち国民として願う。